

1

NEC Express5800シリーズ

導入編

本製品や添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順を説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

知っておきたいこと (2ページ)

本製品の特長や添付（または別売品）のソフトウェア、および各種オプションとソフトウェアの組み合わせによって実現できるシステム管理のための機能について説明しています。

導入のポイント (6ページ)

本製品をご利用されるシステムを構築する際に知っておいていただきたい事柄や、参考となるアドバイスが記載されています。

お客様登録 (10ページ)

お客様登録の方法について説明しています。Express5800シリーズ製品に関するさまざまな情報を入手できます。ぜひ登録してください。

セットアップ (11ページ)

本製品をお使いになれるまでに必要な手順について順を追って説明しています。

再セットアップ (27ページ)

ハードディスクドライブからオペレーティングシステムを起動できなくなった場合にハードディスクドライブの内容を出荷時の状態に戻してから再セットアップする方法について説明しています。

応用セットアップ (41ページ)

シームレスセットアップを使用しないインストール方法など、特殊なセットアップの方法について説明しています。

HostRAID™について (45ページ)

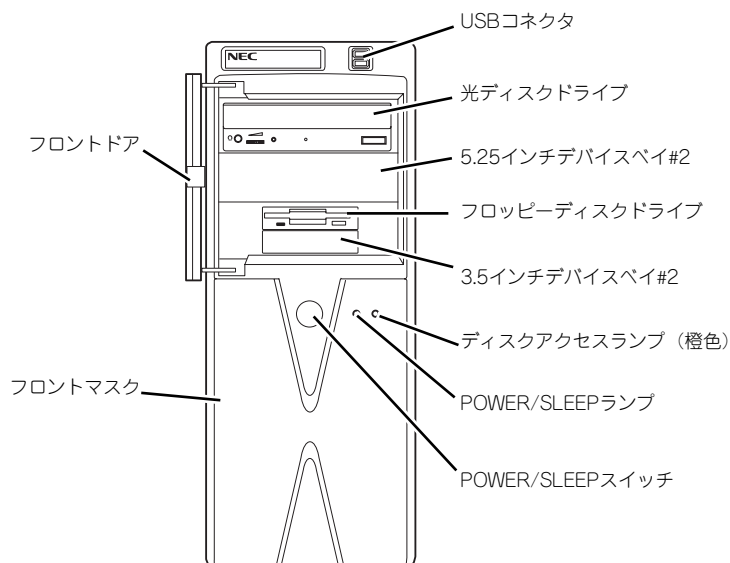
本体標準のディスクアレイ機能(HostRAID)について説明しています。詳細な説明はオンラインドキュメントに記載されています。

知っておきたいこと

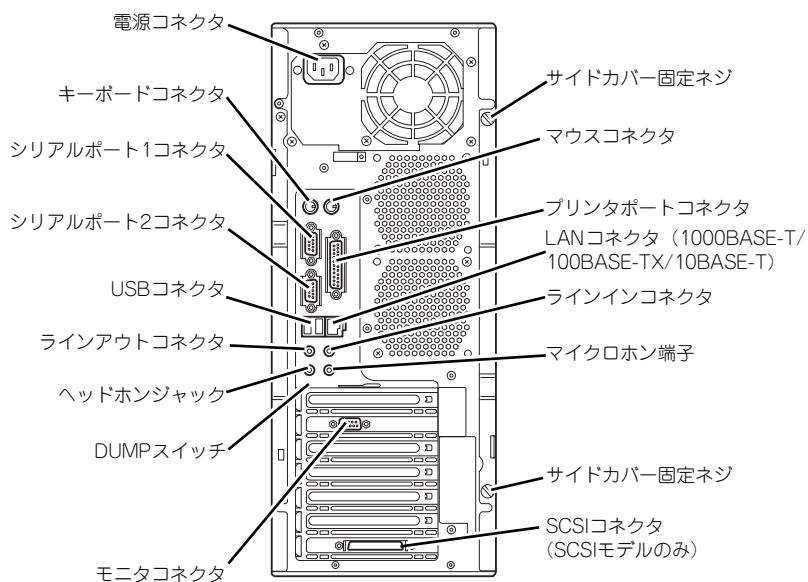
本装置について知っておいていただきたいことがらを記載しています。導入の前にご覧ください。

装置外観

導入の際に知っておいていただきたい各部の名称と場所を次に示します。増設や運用時に知っておいていただきたい各部の名称や機能については「ハードウェア編」をご覧ください。



<装置前面>



<装置背面>

特 長

お買い求めになられた本製品の特長を次に示します。

高性能

- Intel® Pentium® 4 Processor搭載
- 高速1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T
インタフェース (1Gbps/100Mbps/10Mbps対応)
- 高速ディスクアクセスをサポートした内蔵ハード
ディスクドライブ
SATAハードディスクドライブモデル
SATA150対応
SCSIハードディスクドライブモデル
Ultra320 SCSI対応

高信頼性

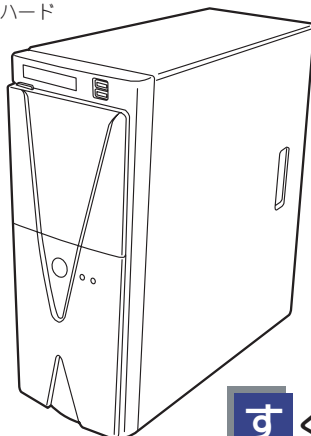
- バスパリティエラー検出
- 温度検知
- パスワード機能
- 内蔵ファン回転監視機能
- 電圧監視機能
- メモリ監視機能 (1ビットエラー
訂正/2ビットエラー検出)
- ディスクアレイ(SATA)

保守機能

- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能
- 保守ツール

豊富な機能搭載

- サウンドスピーカ内蔵
- オーディオ端子 (LINE-IN/LINE-OUT/MIC/
PHONE) 搭載
- El Torito Bootable CD-ROM(no emulation
mode)フォーマットをサポート
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能
- SCSIハードディスクドライブモデル
Ultra320 SCSI (内蔵ハードディスクドライブ) 対応
- SATAハードディスクドライブモデル
SATA150(内蔵ハードディスクドライブ) 対応
- 光ディスクドライブベイは購入時に選択可能な
フリーセクションタイプ



省電力機能

多彩なスリープ機能をサポート
(オプションボードによっては
機能しないものもある)

管理機能

- ESMPRO/ServerAgent
- ESMPRO/ServerManager

自己診断機能

- Power On Self-Test (POST)
- テスト診断 (TeDoLi)

すぐに使える

Microsoft® Windows® XP Professional 日本語版
がインストール済み

便利なセットアップ ユーティリティ

- EXPRESSBUILDER (システムセットアップユーティリティ)
- ExpressPicnic (セットアップパラメータFD作成ユーティリ
ティ)
- SETUP (BIOSセットアップユーティリティ)
- SCSI.Select (SCSI BIOSセットアップユーティリティ)

拡張性

- PCIバス×6スロット
PCI EXPRESSインタフェース×1スロット(グラフィッ
クスアクセラレータ用)(#1)
PCI EXPRESSインタフェース×1スロット(#2)
PCI 32-bit/33MHz/5Vインタフェース×4スロット
(#3~#6)
※PCI #6スロットへのロングボード搭載は不可
- 最大4GB*のメモリ (DIMM×4スロット)
- USB2.0対応

* 3GB程度しか認識されません。

前ページに示すとおり、本体には、コンパクトなボディにさまざまな機能が搭載されています。また、ESMPROシリーズと本体やオプションの周辺機器との組み合わせにより、情報を一元管理したり、バックアップを容易にした最適なシステムが構築できます。

本体管理

本製品のハードウェアコンポーネントで実現している運用管理機能/信頼性機能を提供します。また、EXPRESSBUILDERに収録されている「ESMPRO/ServerAgent」により、システムの状態を統合的に管理することができます。本体の状態は、同じくEXPRESSBUILDERに収録されている「ESMPRO/ServerManager」がインストールされたネットワーク上の管理コンピュータからチェックすることができます。

ESMPRO/ServerAgentをインストールした場合、データビューアの項目ごとの機能可否は下表のようになります。

機能名	可否	機能概要
ハードウェア	○	ハードウェアの物理的な情報を表示する機能です。
	○	メモリバンク
	○	装置固有の情報
	○	CPU
システム	○	CPU の論理情報参照や負荷率の監視をする機能です。 メモリの論理情報参照や状態監視をする機能です。
I/O デバイス	○	I/O デバイス（フロッピーディスクドライブ、シリアルポート、パラレルポート、キーボード、マウス、ビデオ）の情報参照をする機能です。
システム環境	△	温度、ファン、電圧、電源、ドアなどを監視する機能です。
	○	温度
	○	ファン
	○	電圧
	X	電源
	X	ドア
ソフトウェア	○	サービス、ドライバ、OS の情報を参照する機能です。
ネットワーク	○	ネットワーク (LAN) に関する情報参照やパケット監視をする機能です。
拡張バスデバイス	○	拡張バスデバイスの情報を参照する機能です。
BIOS	○	BIOS の情報を参照する機能です。
ローカルポーリング	○	エージェントが取得する任意の MIB 項目の値を監視する機能です。
ストレージ	○	ハードディスクドライブなどのストレージデバイスやコントローラを監視する機能です。
ファイルシステム	○	ファイルシステム構成の参照や使用率監視をする機能です。
ディスクアレイ	○	LSI Logic 社製および Promise 社製ディスクアレイコントローラを監視する機能です。
その他	X	Watch Dog Timer による OS ストール監視をする機能です。

○: サポート △: 一部サポート X: 未サポート



ESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentは、本体に標準添付されています。各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

ストレージ管理

大容量のストレージデバイスを管理するために次の点について留意しておきましょう。

- 内蔵のハードディスクドライブとDATなどのバックアップ装置機能を提供します。
テープ装置へのデータのバックアップはWindows XP標準のバックアップアプリケーションの他にARCserve、BackupEXEC、NetBackupなどによるバックアップも可能です。なお、バックアップ装置は別売のオプションです。
- オプションのRAIDコントローラと内蔵のハードディスクドライブによるディスク管理機能を提供します。

ハードディスクドライブの耐障害性を高めることは、直接的にシステム全体の信頼性を高めることにつながるといえます。オプションのRAIDコントローラを使用することにより、ハードディスクドライブをグループ化して冗長性を持たせることでデータの損失を防ぐとともにハードディスクドライブの稼働率を向上することができます。

本体のマザーボードには、シリアルATA(SATA)ハードディスクドライブを接続することができるチャンネルを標準で持っています。また、このチャンネルを制御するコントローラによってRAIDドライブを構築することができます。コントローラがサポートしているRAIDレベルはRAID0とRAID1です。

コントローラの制御や各種設定はコントローラに搭載されているコンフィギュレーションユーティリティ「Array Configuration Utility (ACU)」を使用します。詳しくは「ハードウェア編」を参照してください。

運用中の管理・保守はブラウザベースのユーティリティ「Adaptec Storage Manager™ Browser Edition」を使用します。使用方法については「ソフトウェア編」、またはオンラインドキュメントを参照してください。

電源管理

商用電源のトラブルは、システムを停止させる大きな原因のひとつです。

停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。

無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリーから電源を供給し、システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、電源ユニットの寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュールなどによる本装置の自動・無人運転を実現することもできます。

本製品では、NEC社製多機能UPS(I-UPSPro)と、APC社製Smart-UPSの2種類の無停電電源装置をオプションとして提供しており、それぞれESMPRO/UPSController、PowerChute *plus* で管理・制御します。

ネットワーク管理

クライアント/サーバシステムを構築した場合にネットワーク構成機器(サーバ/ワークステーション、ルータ、ハブなど)を監視し障害や過負荷状態を検出することができます。なお、ルータやハブの監視にはESMPRO/Netvisorなどの関連製品が必要です。

導入のポイント

本装置を導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

システム構築のポイント

お使いになるシステムに本製品を導入するにあたり、次の点について留意してください。

まずはじめに本体、および添付品がすべてそろっていることを確認してください（添付の構成表を参照してください）。万一、足りないものや破損しているものがあつたときはお買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。また、システムを構築するために必要となる機器についても確認しましょう。

日常での運用において、本体の状態を管理・監視できるようなシステムを構築しておくことが望まれます。

添付の「EXPRESSBUILDER®」CD-ROMには、本体、およびExpress5800シリーズ製品の状態を監視することができるサーバ/ワークステーション管理アプリケーション「ESMPRO®」が収録されています。ESMPROは、障害が起きたときに管理PCへ障害を通知したり、その障害内容を採取したりすることができます。

ESMPROやその他の管理アプリケーション、ハードウェアの持つ機能などを効率よく使用してシステム管理やセキュリティの強化を図ってください。

なお、本体に障害が発生した際に、NECフィールディング（株）がアラーム通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。

「エクスプレス通報サービス」をご利用することもご検討ください。

電源を入れる前に

本体をセットアップし、システムを構築する場合は、次の順序で行います。

① ハードウェアのセットアップ

本体を箱から取り出し、最適な場所に設置後、キーボード、マウス、ディスプレイ装置のケーブル、電源コードの順で本体背面のコネクタに接続します。



オペレーティングシステムのセットアップが完了するまでは、内蔵オプションの取り付けや周辺機器の接続をしないでください。これらの作業は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してから行います。ただし、メモリは取り付けることをお勧めします。

② オペレーティングシステムのセットアップ

購入された本体にはMicrosoft Windows XP Professional 日本語版がすでにインストールされています。

そのまま電源をONにすればユーザー固有の情報など必要な設定を入力するだけで使用できるようになっています。詳しい手順は12ページで説明しています。

[システムを修復する場合は...]

システムの修復をするときは、以下の2つの方法があります。

- システムの修復

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシステム修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外にはお勧めできません。

詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

- 再セットアップ

システムの破損などが原因でオペレーティングシステム(OS)を起動できなかった場合などに添付のバックアップCD-ROMを使って再セットアップしてください。

再セットアップの方法については28ページで説明しています。

③ 内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

別途購入されたメモリやハードディスクドライブなどの内蔵デバイスを取り付け、プリンタなどの周辺機器を接続します。接続する周辺機器用のデバイスドライバをインストールする場合は、周辺機器に添付の説明書を参照してインストールしてください。

④ 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたときにすぐに原因の見極めや解決ができるように障害処理のためのセットアップをしてください。Windows XPに関しては本書で説明しています。



NEC では、ESMPRO の他にも「エクスプレス通報サービス」と呼ばれる Express5800 製品の状態監視用サービスを用意しています。Express5800 製品に障害が起きたときに自動的に保守サービス会社に通報され、保守サービス会社から保守情報の通知または保守員の派遣などのサービスを受けることができます。エクスプレス通報サービスをご契約することをお勧めします。

⑤ 管理ユーティリティのインストール

システムで検出した障害情報の管理を行うためには、ESMPRO/ServerAgentをインストールします（ESMPRO/ServerAgentは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます）。また、ネットワーク上の管理PCからExpress5800製品の運用状態や障害情報を確認する場合は管理PCにESMPRO/ServerManagerをインストールしてください（インストールについては「ソフトウェア編」で説明しています）。ESMPRO/ServerManagerは本体にインストールして使用することもできます。



添付のCD-ROMには、「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」の2つのアプリケーションが含まれています。ESMPROには、その他にもさまざまな用途に応じたアプリケーションが用意されています。詳しくはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

⑥ システム情報のバックアップ

ハードウェアとソフトウェアのすべてのセットアップを完了したら、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMのユーティリティを使用して本体装置のシステム情報のバックアップをとります。

本体装置の故障による部品交換や修理の後にバックアップしていたシステム情報をリストアップすることで故障前と同じ状態で本製品を使用することができます。

ネットワーク構築のポイント

ネットワークに接続する場合は、コンピュータ名やTCP/IPなどの設定が必要です。あらかじめ確認しておくことをお勧めします(後から変更することもできます)。

ネットワークを経由して、他のシステムからの指示により本体の電源を投入(リモートパワーオン)する場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューの「Advanced Chipset Control」で「Wake On LAN/PME」を「Enabled」に設定します。

UPS接続時のポイント

本体の電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続している場合、UPSから本体の電源を制御できる電源連動(AC-LINK)機能を使用することができます。

このAC-LINK機能を使用して本体の電源ON/OFFを行う場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Server」メニューの「AC-LINK」を「Power On」に設定します。また、UPSを正しく動作させるためにお使いになるUPSに合ったソフトウェアの設定が必要です。ソフトウェア編を参照して正しく設定してください。

ストレージ機能構築のポイント

- 標準装備HostRAID™ (SATA版)を使用する場合

Adaptec Storage Management™ - Browser Editionをインストールしておく必要があります。「ソフトウェア編」の「Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition」の説明に従ってAdaptec Storage Manager™ - Browser Editionをインストールしてください。

ディスクアレイシステムを構築する際は、ディスク稼働率や予防保守性を高めるためにも、アレイディスクの整合性チェックを定期的に行うことをお勧めします(オンラインドキュメント「Adaptec Storage Manager™ Browser Editionユーザーズマニュアル」の「タスクの作成と表示」を参照してください)。

- バックアップファイルシステムを使用する場合

本装置では、別売のSCSIコントローラを搭載することによりバックアップ装置を接続することができます。バックアップ装置とバックアップツールを使って定期的に大切なデータのバックアップをとることをお勧めします。

主なバックアップツールは次のとおりです。

- Windows XPバックアップツール
- ARCserve (コンピュータ・アソシエイツ社)
- BackupExec (ベリタス社)
- NetBackup (ベリタス社)

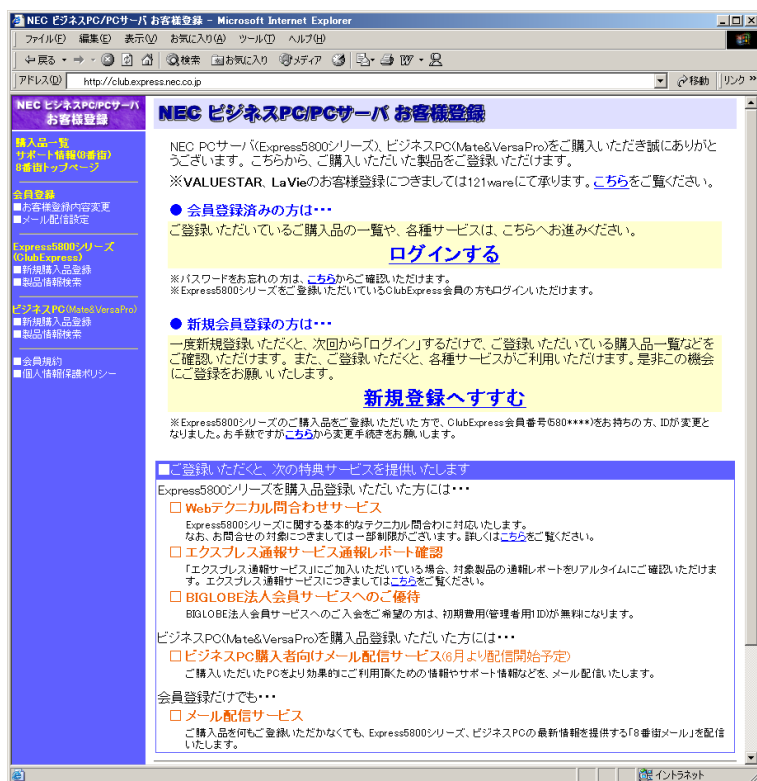
DAT装置などのテープデバイスは、ヘッドの汚れによりデータの読み書きが正常に行われず、バックアップ/リストア中にエラーが発生する場合があります。クリーニングテープにより、定期的にヘッドを清掃するように心がけてください。

お客様登録

NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、またはClub Expressのインターネットホームページ

<http://club.express.nec.co.jp/>

にてご登録ください。



「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを、無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。ぜひ、ご覧ください。

セットアップ

箱を開けてからお使いになれるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際は、「再セットアップ (27ページ)」を参照してください。



本体にWindowsのプロダクトキーが記載されたIDラベルが貼りつけられています。



OSのセットアップや再インストール時に必要な情報です。剥がしたり汚したりしないよう注意してください。もし剥がれたり汚れたりして見えなくなった場合はお買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。あらかじめプロダクトキーをメモし、他の添付品といっしょにメモを保管されることをお勧めします。

EXPRESSBUILDERがサポートしているオプションボード

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMでサポートしているオプションボードは、以下になります。下記以外のオプションボードを接続するときは、オプションボードに添付の説明書と「応用セットアップ」(41ページ)を参照してセットアップしてください。

- EXPRESSBUILDERにてOSのインストールをサポートしているボード
 - ー N8103-78 ディスクアレイコントローラ(SATA)
 - ー N8103-80 ディスクアレイコントローラ(SCSI 1ch)
 - ー SATA HostRAID(マザーボード上のコントローラを利用)
- その他のオプション
 - ー N8103-65 SCSIコントローラ

1 ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。



内蔵デバイスは、オペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けてください。

1. 本体に最も適した場所に設置する (→58ページ)。
2. ディスプレイ装置やマウス、キーボードのケーブルを本体に接続する (→60ページ)。



プリンタなどの周辺機器は、オペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けてください。

3. 添付の電源コードを本体と電源コンセントに接続する (→63ページ)。
4. ハードウェアの構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

118ページを参照してください。



BIOSのパラメータで時刻や日付の設定と確認をしてください (本装置では使用するOSを選択するようなBIOSパラメータ値はありません。プラグ・アンド・プレイのサポート有無に関する設定は特に必要ありません)。また、WindowsXPを使用する場合は、BIOSの設定がHyper Threading Technology 対応になっていることを確認してください (→125ページ)。

2 オペレーティングシステムのセットアップ

電源をONにして、お使いになれる状態になるまでを順を追って説明します。

セットアップの手順

初めて電源をONにしてセットアップするときは、次の手順でシステムを起動して、セットアップを始めます。



- 本装置にインストールされているサービスパックのバージョンと、装置に添付されているサービスパックのバージョンが異なる場合があります。装置にインストールされているサービスパック以降のバージョンが添付されている場合は、装置に添付の「Windows XP RUR x 対応 (Service Pack x) インストール手順書」を参照してサービスパックのインストールをしてください。サービスパック情報に関しては、下記サイトより詳細情報を確認ください。

[NEC 8番街] <http://nec8.com/>

- N8103-78をご使用時、インストール中またはシステム再起動時などに以下の警告メッセージがポップアップで表示されます。

[Array scheduled synchronization has not been set up.]

これは、定期的なアレイの整合性チェック (Array Synchronization) が設定されていないことを警告するメッセージです。このメッセージが表示されても、インストール処理は正常に終了しています。

定期的なアレイの整合性チェックは、PAMのArray Synchronization Schedule機能で設定してください。アレイの整合性チェックは、予防保守として非常に効果があるため、定期的に行うことを強く推奨いたします。

Array Synchronization機能およびSchedule機能の詳細については、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメント「Promise Array Managementユーザーズマニュアル」を参照してください。

また、定期的な整合性チェックが設定されていない場合、システムイベントログに以下の警告メッセージが登録されます。この警告メッセージも定期的な整合性チェックが設定されていないことを示すものです。

[No Array Scheduled Synchronization Array scheduled synchronization has not been set up.]

Microsoft Windows XP Professionalがハードディスクドライブにインストール済みのモデルでは、次の手順に従ってセットアップをしてください。



セットアップを完了するまでは、キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外のデバイスを接続しないでください。

1. フロッピーディスクドライブと光ディスクドライブにディスクがセットされていないことを確認する。
2. 本体の電源をONにする。
本体は自動的にPOSTを開始し、その後、「Windowsへようこそ」が開始されます。
3. 画面のメッセージに従って各種設定を完了させる。

4. インストールの完了後、システムにログオンする。

以下のソフトウェアも併せてインストールされます。ソフトウェアのセットアップについては、「ソフトウェア編」または添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス
- Power Console Plus
- Promise Array Management
- Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition

以上でインストールは完了です。続いて「デバイスドライバ（標準装備）のセットアップ」に進んでください。

デバイスドライバ（本体標準装備）のセットアップ

オプションのデバイスドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。

● ディスクドライバ (IDE/SATA)

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです（システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます）。

● ディスクドライバ (SCSI)

SCSIハードディスクドライブモデルに標準装備のSCSIコントローラ用ディスクドライバは、購入時にインストール済みです（システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます）。

● PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断

PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。
2. スタートメニューから [すべてのプログラム]、[アクセサリ] の順にポイントし、[エクスプローラ] をクリックする。
3. 「<CD-ROMのドライブレター>:\¥WINNT¥XP¥BC5¥PROSET¥WS03XP32」ディレクトリ内の「PROSET.EXE」アイコンをダブルクリックする。
[Intel(R) PROSet - InstallShield ウィザード] が起動します。
4. [次へ] をクリックする。
5. [使用許諾契約の条項に同意します] を選択し、[次へ] をクリックする。
6. [標準] を選択し、[次へ] をクリックする。

7. [インストール] をクリックする。

[InstallShield ウィザードを完了しました] ウィンドウが表示されます。

8. [完了] をクリックする。

9. システムを再起動させる。

以上で完了です。

● ネットワークアダプタの詳細設定

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度と Duplexモードの設定が必要です。



ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムを再起動してください。自動的にインストールされます。

ー PROSetがインストールされていない場合

1. [ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスを開く。

[標準のスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカルエリア接続]をクリックする。

[ローカルエリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

- (2) [プロパティ] をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。

- (2) [ローカル エリア接続]アイコンを右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ] をクリックする。

2. [構成] をクリックする。

[Intel(R) PRO/1000 MT Network Connectionのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. [詳細設定] タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス] をハブの設定値と同じ値に設定する。

4. [Intel(R) PRO/1000 MT Network Connectionのプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

ー PROSetがインストールされている場合

1. [有線ネットワーク用Intel(R) PROSet] ダイアログボックスを表示する。

[標準のスタートメニューモードの手順]

スタートメニューから[コントロールパネル]→[有線用Intel(R) PROSet]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

(1) スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。

(2) [有線用Intel(R) PROSet]アイコンをダブルクリックする。

2. リスト中の [Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection] をクリックして選択する。

3. [速度] タブをクリックし、リンク速度とデュプレックス設定をハブの設定と同じ値に設定する。

4. [有線ネットワーク用Intel(R) PROSet] ダイアログボックスの[適用]をクリックし、[OK]をクリックする。

以上で完了です。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加／削除をしてください。[ネットワーク接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。



サービスの追加にて、[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム（またはパケット）を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、この後の「障害処理のためのセットアップ」を参照してください。

● オプションのネットワークボードのドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-103/111/112)を使用する場合について説明します。

N8104-103/112の場合

N8104-103/112はドライバが自動的にインストールされますので、ボード添付のドライバを使用しないでください。

N8104-103を使用する場合は、PROSetを起動し、[詳細設定]タブより「TCPセグメンテーションのオフロード」の値を「オフ」にして使用してください。

N8104-111の場合

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥XP¥BC5¥PRO100¥WS03XP32」

インストール手順が不明な場合は、インストールサプリメントガイドの「オプションボード用ネットワークドライバのインストール」の項を参照してください。

PROSetをインストールする場合は、各ボード添付のPROSet II は使用せずに、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているPROSetをインストールしてください。すでに、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているPROSetをインストール済みの場合は、再度インストールする必要はありません。

「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥XP¥BC5¥PROSET¥WS03XP32」

インストール手順が不明な場合は、本書の「PROSet」の項を参照してください。

- **SCSIコントローラのドライバ**

SCSIコントローラ(N8103-65)を使用する場合は、次の手順でドライバをインストールしてください。

1. [スタートメニュー]–[コントロールパネル]–[管理ツール]–[コンピュータの管理]から[デバイスマネージャ]を起動する。
2. デバイスマネージャで不明なデバイスとして登録されているSCSIコントローラをダブルクリックする。
3. [ドライバの更新]をクリックする。
4. ハードウェアの更新ウィザードが表示されるので、「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」を選択し、[次へ]をクリックする。
5. 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」を選択し、[次へ]をクリックする。
6. [ディスク使用(H)] をクリックする。

フロッピーディスクドライブに「Windows Server XP OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をセットして、製造元のファイルのコピー元に「a:¥」と入力し、[OK]をクリックします。

7. 以下のドライバを選択し、[次へ]をクリックする。

N8103-65 使用時：[INITIO INI-A10XU2W PCI SCSI Controller]



Windowsロゴテストに合格していない旨のポップアップが出る場合がありますが、システム上問題ありません。[OK]をクリックし処理を継続してください。

以上でドライバのインストールは完了です。画面の指示に従ってシステムを再起動してください。

- **グラフィックスアクセラレータドライバ (ディスプレイドライバ)**

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用する場合は、本体またはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク(フロッピーディスクかCD-ROM)を使用してドライバをインストールしてください。

- **サウンドドライバ**

標準装備のサウンドドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

- **USB2.0ドライバ**

サービスパック2以降を適用時のみ使用できます。USB2.0ドライバは、購入時にインストール済みです。システムの修復や再セットアップの際は、システムのアップデートを行うと自動的にインストールされます。

システムのアップデート（サービスパックの適用）

システムは、購入時に自動的に最新の状態にアップデートされますが、次のような場合には必ずアップデートし直してください。

- システム構成を変更した場合（内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合）
- システムを修復した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合

（サービスパック関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再度RURのフロッピーディスクを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このときサービスパックを再適用する必要はありません。）

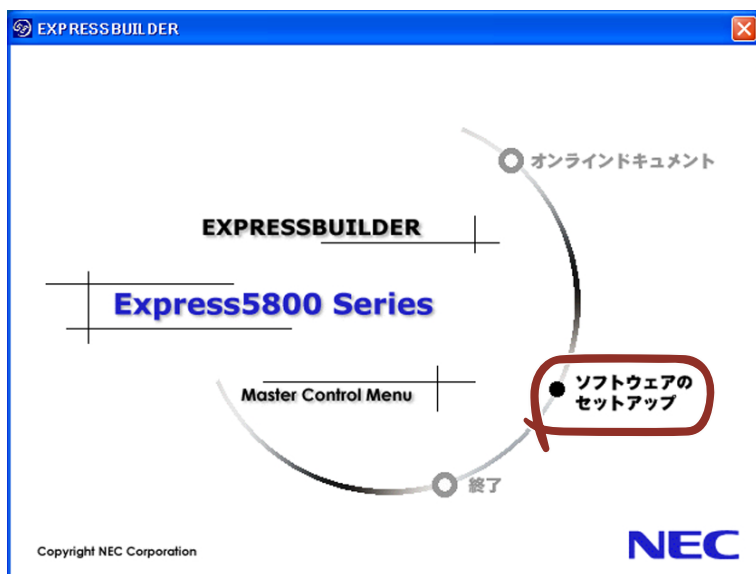
- 本装置のBIOSセットアップユーティリティを使って、「Hyper-Threading Technology」の設定を変更した場合（プロセッサに関する設定項目です）



本装置ではServicePack なし/1/1a は、サポートしておりません。ServicePack 2以上を使用する必要があります。
ServicePack 2が含まれた Windows XP CD-ROMを使用しインストールをされた場合は、再度Service Pack 2を適用する必要はありません。

アップデート手順

管理者権限のあるアカウント（Administrator など）で、システムにログインした後、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを本体の光ディスクドライブにセットしてください。表示された画面「マスターコントロールメニュー」の「ソフトウェアのセットアップ」を左クリックし、メニューから「システムのアップデート」をクリックすると起動します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進め、サービスパックを適用してください。



3 内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

別途購入したオプションの内蔵デバイスを取り付けてください。取り付け手順については、ハードウェア編の「内蔵オプションの取り付け」を参照してください。

デバイスドライバ等のインストール手順については、オプションに添付の説明書などを参照してください。



ここで取り付けたデバイスのモデル名やタイプ、取り付け位置をメモしておいてください。オペレーティングシステムを再インストールする場合は、購入時の標準的なハードウェア構成に戻してから作業を始める必要があります。購入時のセットアップを完了した後に取り付けたデバイスは、取り外さなければいけません。

別売のネットワークケーブルで本装置をネットワークに接続してください。キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外の外付けデバイスがある場合は、それらのデバイスも併せて接続してください。

本体のコネクタ位置についてはハードウェア編の「各部の名称と機能」を参照してください。

4 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。



Windows XPでの説明では、表示方法が以下のように設定されている時の手順を記載しています。

- [タスクバーと [スタート] メニューのプロパティ] の [[スタート] メニュー] タブで [[スタート] メニュー] が選択されている。
- フォルダーオプションで、[フォルダに共通の作業を表示する] が選択されている。

メモリダンプ（デバッグ情報）の設定

本体内のメモリダンプ（デバッグ情報）を採取するための設定です。



メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

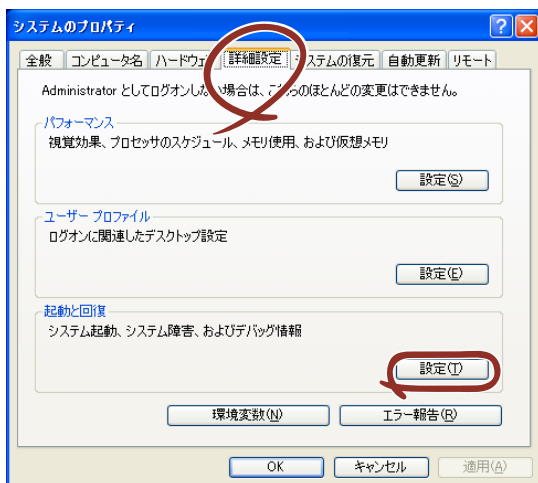
次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューから [コントロールパネル] をクリックする。
[コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル] ウィンドウから [パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする。



クラシック表示にしている場合は、[コントロールパネル] から直接 [システム] をクリックしてください。

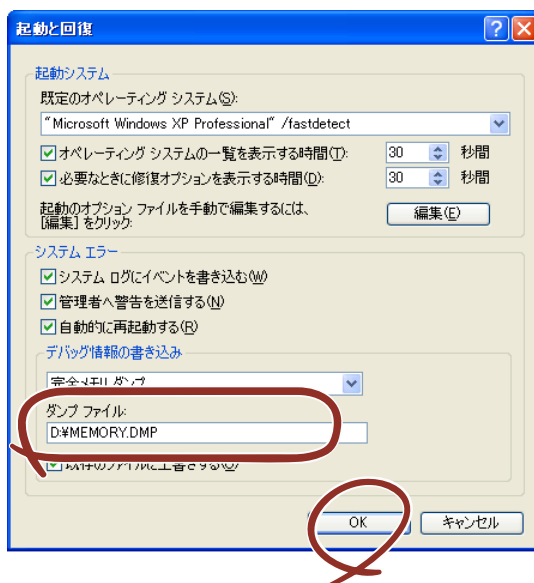
3. [システム] をクリックする。
[システムのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
4. [詳細設定] タブをクリックする。
5. [起動と回復] ボックスの [設定] をクリックする。



6. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、[OK] をクリックする。

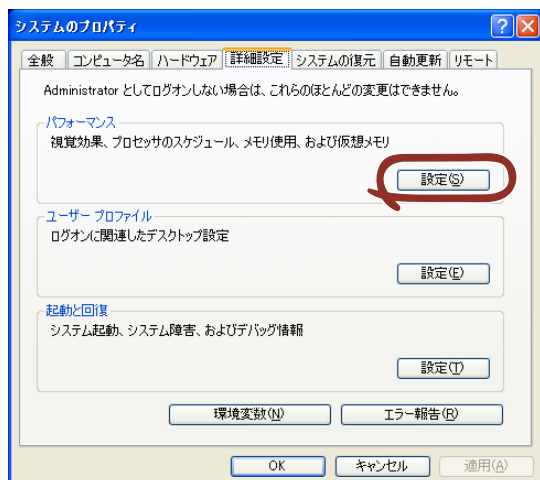
<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:\MEMORY.DMP

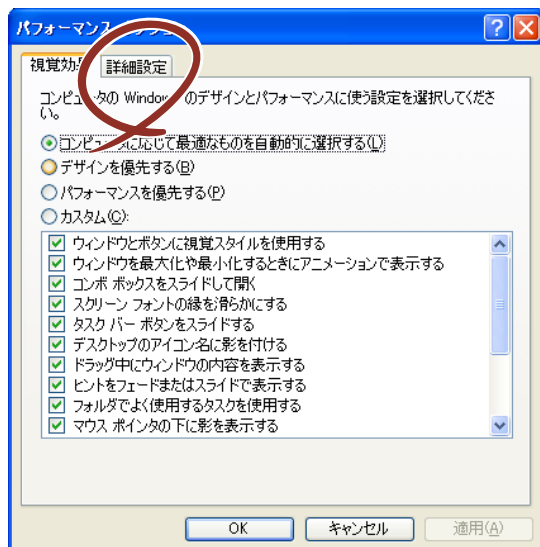


- デバッグ情報の書き込みは「完全メモリダンプ」を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、「完全メモリダンプ」を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、「カーネルメモリダンプ」を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを「カーネルメモリダンプ」に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

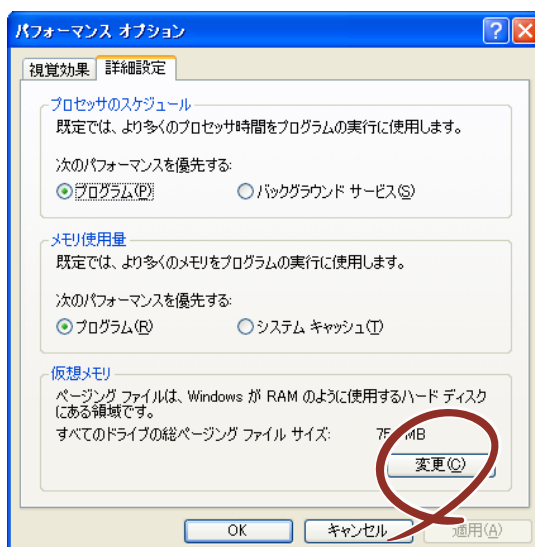
7. [パフォーマンス] ボックスの [設定] をクリックする。
[パフォーマンスオプション] ウィンドウが表示されます。



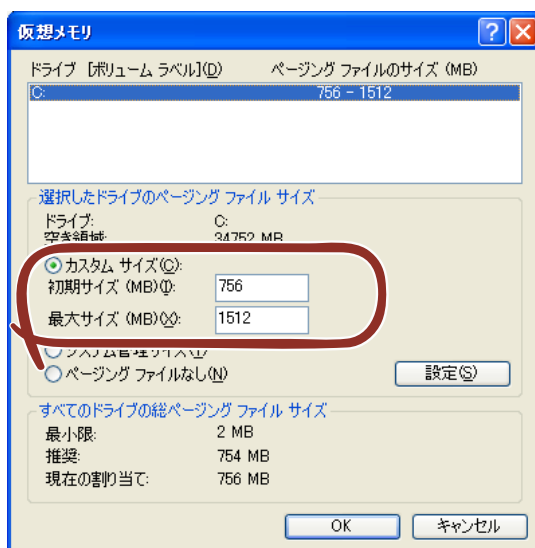
8. [パフォーマンスオプション] ウィンドウの [詳細設定] タブをクリックする。



9. 「仮想メモリ」ボックスの「変更」をクリックする。



10. 「選択したドライブのページングファイルサイズ」ボックスの「初期サイズ」を「推奨」値以上に変更し、「設定」をクリックする。



- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。STOPエラーが発生したときに完全なデバッグ情報（メモリダンプ）を採取するために必要です。ページングファイルの「初期サイズ」を「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報を採取できない場合があります。
- 「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(30 ページ)」を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。
- 障害発生時に備えて、事前にDUMPスイッチを押して正常にメモリダンプの採取ができることを確認しておくことをお勧めします。

11. [OK] をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。
メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

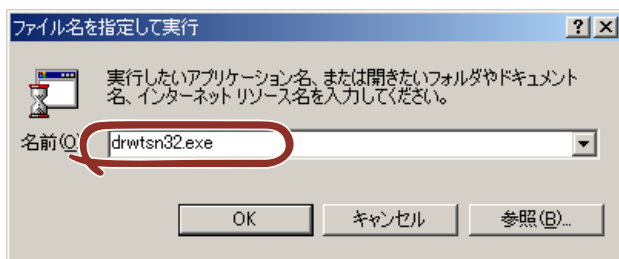
ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとシステムを診断し、診断情報（ログ）を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。



ワトソン博士の設定は、購入時および再セットアップ時に自動的に設定されています。

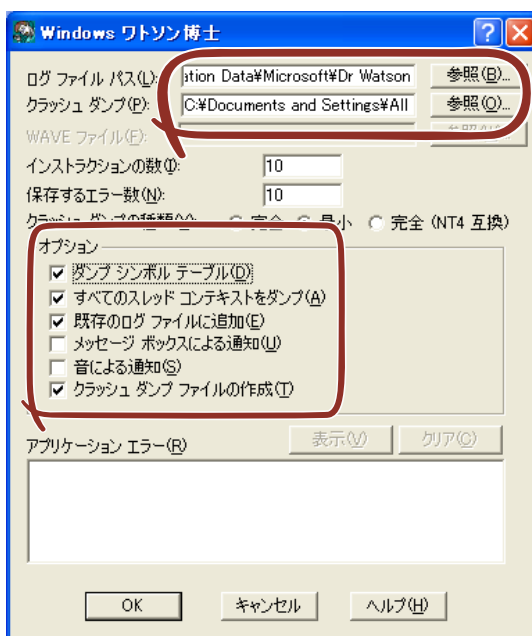
1. スタートメニューの「ファイル名を指定して実行」をクリックする。
2. 「名前」ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK] をクリックする。

ワトソン博士のダイアログボックスが表示されます。



3. [ログファイルパス] ボックスに診断情報の保存先を指定する。
「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

<Windows XPでの設定例>



チェック

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ] ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション] ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ダンプシンボルテーブル
- すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- 既存のログファイルに追加
- クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK] をクリックする。

5 管理ユーティリティのインストール

添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMには、本体監視用の「ESMPRO/ServerAgent」および本体管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらのユーティリティは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます。詳細については、第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。



再セットアップを行ったときは、これらのユーティリティを個別にインストールしてください。



ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

6 システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、EXPRESSBUILDERを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧（リストア）できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを本体装置の光ディスクドライブにセットして、再起動する。

EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。

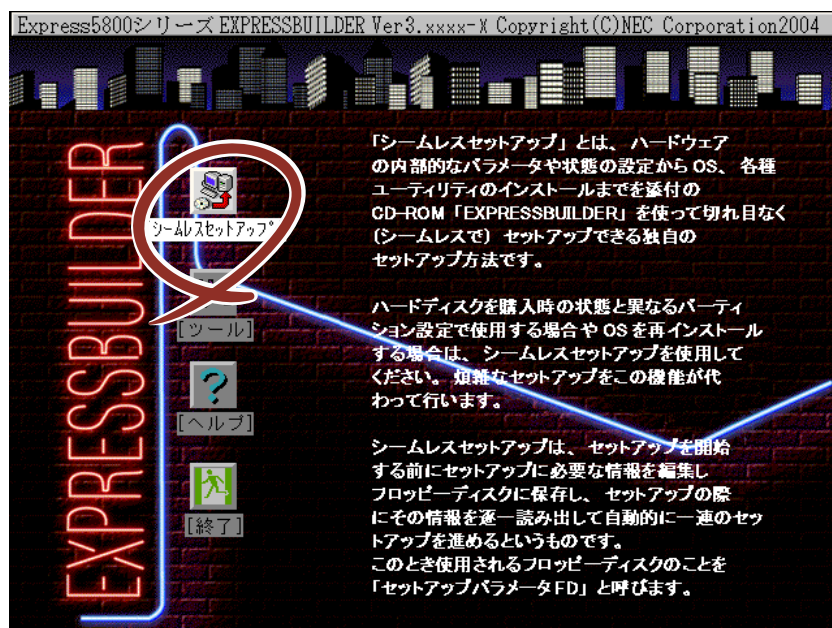
3. [ツール] — [システム情報の管理] を選択する。
4. [システム情報の管理] から [退避] を選択する。

以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

再セットアップ

再セットアップとは、システムの破損などが原因でオペレーティングシステム（OS）を起動できなくなった場合などに、Windows XPの場合は添付の「バックアップCD-ROM」を使用し、ハードディスクドライブを出荷時の状態に戻してシステムを起動できるようにするものです。

再セットアップは添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMのメニューから起動します。



[シームレスセットアップ] をクリックすると、OSの再セットアップを開始します。



シームレスセットアップを使用しないインストール方法など、特殊なセットアップについては、本編最後の「応用セットアップ」で補足しています。



再セットアップできるオペレーティングシステムはそれまで使用していたオペレーティングシステムです。前回と異なるオペレーティングシステムをインストールするには、別途オペレーティングシステムを購入してください。

再セットアップ — シームレスセットアップ —

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってセットアップをします。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS (Windows XP)、各種ユーティリティのインストールまでを添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使って切れ目なく（シームレスで）セットアップできるExpress5800シリーズ独自のセットアップ方法です。ハードディスクドライブを購入時の状態と異なるパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集しフロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一連のセットアップを進めるというものです。このとき使用されるフロッピーディスクのことを「セットアップパラメータFD」と呼びます。



チェック

シームレスセットアップを使用しないインストール方法など、特殊なセットアップについては、41ページの「応用セットアップ」で説明しています。



ヒント

- 「セットアップパラメータFD」とはシームレスセットアップの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。

シームレスセットアップは、この情報を基にしてすべてのセットアップを自動で行います。この間は、本体のそばにいて設定の状況を確認する必要がありますはありません。また、再インストールのときに前回使用したセットアップパラメータFDを使用すると、前回と同じ状態にセットアップすることができます。

- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブックディスクをご利用ください。
- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic®」を使って事前に作成しておくことができます。

事前に「セットアップパラメータFD」を作成しておくと、シームレスセットアップの間に入力や選択しなければならない項目を省略することができます。(セットアップパラメータFDにあるセットアップ情報は、シームレスセットアップの途中で作成・修正することもできます)。Express5800シリーズの他にWindows 95/98/Me、Windows NT 3.51以降、Windows XP/2000またはWindows Server 2003で動作しているコンピュータがお手元にある場合は、ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧めします。

ExpressPicnicを使ったセットアップパラメータFDの作成方法については、179ページで説明しています。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

Windows XPの中で本装置がサポートしているOSは、Microsoft® Windows® XP Professional 日本語版（以降、「Windows XP」と呼ぶ）です。

その他のOSをインストールするときは、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

BIOSの設定について

Windows XPをインストールする前にハードウェアのBIOS設定などを確認してください。BIOSの設定には、Windows 2000から採用された新しい機能（USBインタフェースへの対応など）に関する設定項目があります。118ページを参照して設定してください。また、BIOSの設定がHyper Threading Technology対応になっていることを確認してください（→125ページ）。

本装置では使用するOSを選択するようなBIOSパラメータ値はありません。プラグ・アンド・プレイのサポート有無に関する設定は特に必要ありません。

Windows XPについて

Windows XPは、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点について注意してください。



- インストールを始める前にオプションの増設や本体のセットアップ（BIOSやオプションボードの設定）をすべて完了させてください。
- 弊社が提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照してください。
- シームレスセットアップを完了した後に20ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。
- シームレスセットアップでは、ステップ バイ ステップ インタラクティブは自動でインストールされません。

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

［ディスクの管理］を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は［コンピュータの管理］内の［ディスクの管理］から行えます。

MO装置の接続について

インストール時にMO装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定すると、ファイルシステムが正しく変換されない場合があります。ファイルシステムが正しく変換されなかった場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

DAT等のメディアについて

シームレスセットアップでは、DAT等のインストールに不要なメディアはセットしないでください。

ハードディスクドライブの接続について

OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ + ハイバネーション用サイズ + アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ = 2700MB

ページングファイルサイズ (推奨) = 搭載メモリサイズ × 1.5

ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 12MB

ハイバネーション用サイズ = 搭載メモリサイズ

アプリケーションサイズ = 任意



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ) 採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 1つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で4095MBです。搭載メモリサイズ×1.5倍のサイズが4095MBを超える場合は、4095MBで設定してください。
- 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズの最大は、「2048MB+12MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、前述の計算方法から

$2700\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + 512\text{MB} + 12\text{MB} + 512\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ} = 4504\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。

ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

1. 「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」を設定する。
2. 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報（ダンプファイルサイズ分）を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

サービスパックの適用について

Express5800シリーズでは、サービスパックを適用することができます。本体に添付されているサービスパック以降のサービスパックを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

[8番街] <http://nec8.com/>

アップグレードインストールについて

Windows 2000からのアップグレードインストールを行う場合は、Windows 2000を格納したパーティションに、約630MBの空き容量が必要です。空き容量が不足している場合には、不要なファイルを削除するなどして、空き容量を確保してください。

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブへの再インストールについて

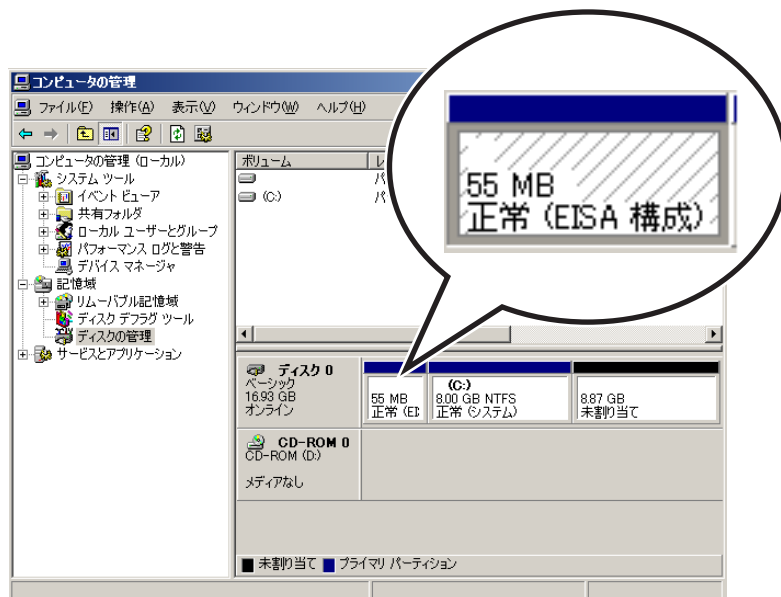
ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。

既存のパーティションを残したい場合は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows XP Professionalインストールレーションサブリメントガイド」を参照して再インストールしてください。

インストールレーションサブリメントガイドにもダイナミックディスクへのインストールに関する注意事項が記載されています。

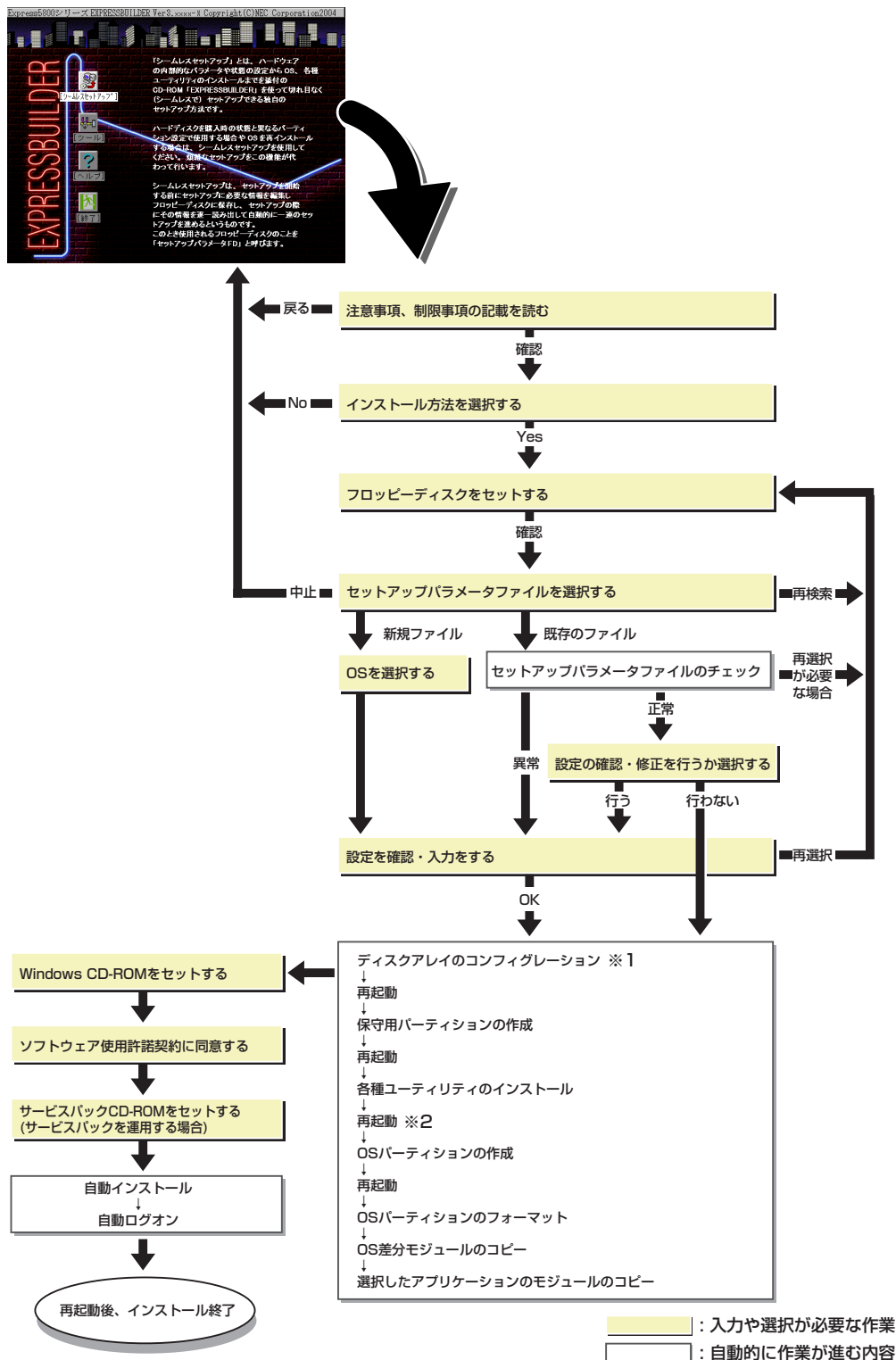
ディスク構成について（「EISA構成」と表示されている領域について）

ディスク領域に「EISA構成」と表示された領域が存在する場合があります。構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。



セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。



セットアップの手順

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。

セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータFDがない場合でもインストールはできますが、その場合でもMS-DOS 1.44MB フォーマット済みのフロッピーディスクが 1 枚必要となります。セットアップパラメータ FD は、EXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピーディスクを1枚用意してください。



- システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。
- Windows XPの起動後にグラフィックスアクセラレータやネットワークアダプタなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの「Microsoft Windows XP Professionalインストールレーションサブリメントガイド」を参照してください。
- セットアップを開始したら、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。セットアップを完了するまでフロントドアを閉じないでください。
- セットアップの途中で光ディスクドライブからトレイが自動的にイジェクトされるときにフロントドアに当たって正しくセットアップできなくなることがあります。

1. 周辺装置、本体の順に電源をONにする。



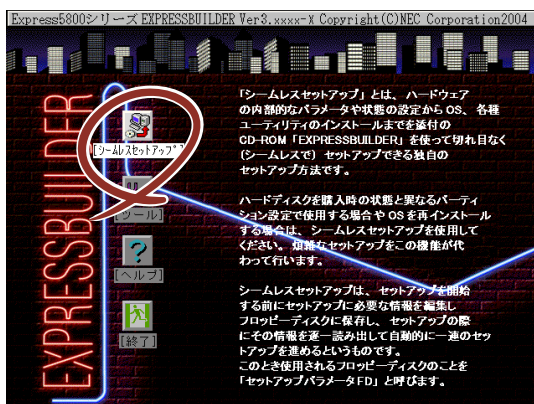
- OSをインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。失敗した場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。
- OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続する場合は、OSをインストールした後から行ってください。
- 論理ドライブを複数作成している場合は、「論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順」(43ページ)を参照してください。

2. 本体の光ディスクドライブに「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする（<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す）か、電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. 「シームレスセットアップ」をクリックする。

「セットアップパラメータFDを挿入してください。」というメッセージが表示されます。



5. 「セットアップパラメータFD」をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]をクリックする。



- 「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、1.44MBのDOS フォーマット済みフロッピーディスク（ブランクディスク）をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認]をクリックしてください。
- セットしたセットアップパラメータFDは指示があるまで取り出さないでください。

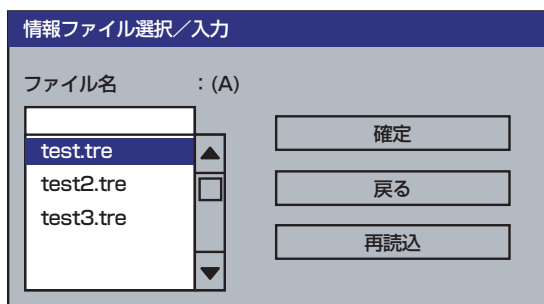
[設定済みのセットアップパラメータFDをセットした場合]

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

(1) インストールに使用するセットアップ情報ファイル名を選択する。



選択されたセットアップ情報ファイルに修正できないような問題がある場合（たとえばExpressPicnic Ver.4以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど）、再度「セットアップパラメータFD」のセットを要求するメッセージが表示されます。セットしたフロッピーディスクを確認してください。



セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

- (2) 確認する場合は「確認」を、確認せずにそのままインストールを行う場合は、「スキップ」をクリックする。

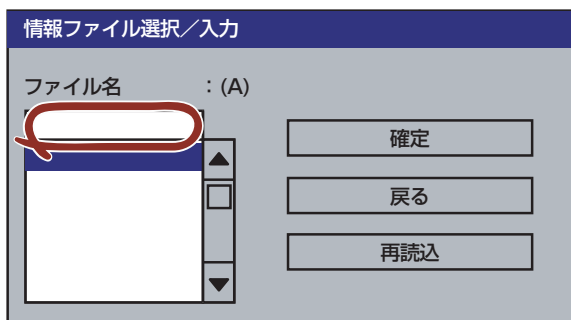
「確認」をクリック→手順6へ進む

「スキップ」をクリック→手順7へ進む

【ブランクディスクをセットした場合】

- (1) 「ファイル名:(A)」の下にあるボックス部分をクリックするか、<A>キーを押す。

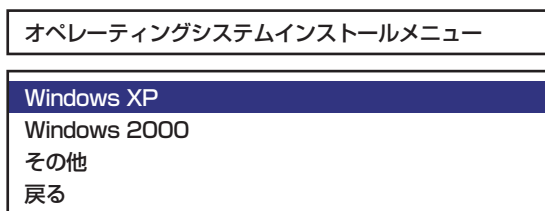
入力ボックスが表示されます。



- (2) ファイル名を入力し、「確定」をクリックする。

「オペレーティングシステムインストールメニュー」が表示されます。リストには、この装置がサポートしているOSが表示されます。

- (3) リストボックスからインストールする「Windows XP」を選択する。



6. OSのインストール中に設定する内容を確認する。

本体にRAID コントローラが搭載されている場合は、[アレイディスクの設定] 画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。

次に、[基本情報] 画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください（画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります。）

以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ヘルプ]をクリックして設定を確認しながら画面を進めてください。設定内容は必要に応じて修正してください。

<表示例>



重要

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズ(30ページ参照)で確保してください。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティション（保守用パーティションを除く）の情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、保守用パーティションが用意されている場合に情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション <保守用パーティション>	第2パーティション	第3パーティション	第4パーティション
保持	削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません（31ページ参照）。「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。
- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択したとき、「パーティション」の設定値は実領域以上または120GB以上の値を指定しないでください。
- 「パーティション」に4095MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外（保守領域を除く）にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を確保してWindows XPをインストールします。また、流用するパーティション（OSシステムパーティション以外）にアクティブなパーティションが存在してはなりません。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない場合もあります。
- ここでは日本語の入力はできません。使用者名と会社名を日本語で入力したい場合は、ログオン後に入力画面がポップアップされますので、その時に再入力し、設定してください。ここでは、仮の名前を入力してください。
- N8103-78をご使用時、インストール中またはシステム再起動時などに以下の警告メッセージがポップアップで表示されます。
「Array scheduled synchronization has not been set up.」

これは、定期的なアレイの整合性チェック(Array Synchronization)が設定されていないことを警告するメッセージです。このメッセージが表示されても、インストール処理は正常に終了しています。

定期的なアレイの整合性チェックは、PAMのArray Synchronization Schedule機能で設定してください。アレイの整合性チェックは、予防保守として非常に効果があるため、定期的に行うことを強く推奨いたします。

Array Synchronization機能およびSchedule機能の詳細については、添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されているオンラインドキュメント「Promise Array Managementユーザズマニュアル」を参照してください。

また、定期的な整合性チェックが設定されていない場合、システムイベントログに以下の警告メッセージが登録されます。この警告メッセージも定期的な整合性チェックが設定されていないことを示すものです。

「No Array Scheduled Synchronization Array scheduled synchronization has not been set up.」



- [基本情報] 画面にある [再読込] をクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択画面に戻ります。[再読込] は、[基本情報] 画面にのみあります。
- [コンピュータの役割] 画面にある [終了] をクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

設定を完了すると自動的に再起動します。

7. オプションの大容量記憶装置ドライバのモジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、大容量記憶装置に添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、メッセージに従って操作してください。

「大容量記憶装置用OEM-FD」をフロッピーディスクドライブに挿入してください。

OK

終了

8. 追加するアプリケーションをインストールする。

シームレスセットアップに対応しているアプリケーションを追加でインストールする場合は、メッセージが表示されます。

追加するアプリケーションのインストール媒体をCD-ROMまたはフロッピーディスクドライブに挿入してください。

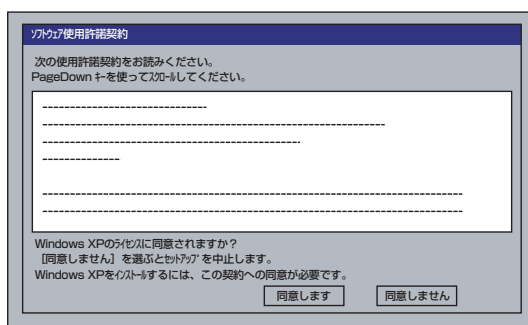
OK

終了

9. メッセージに従って「EXPRESSBUILDER」CD-ROMとセットアップパラメータFDを光ディスクドライブとフロッピーディスクドライブから取り出し、バックアップCD-ROMを光ディスクドライブにセットする。

[ソフトウェア使用許諾契約] 画面が表示されます。

10. よく読んでから、同意する場合は、[同意します] をクリックするか、<F8>キーを押す。同意しない場合は、[同意しません] をクリックするか、<F3>キーを押す。

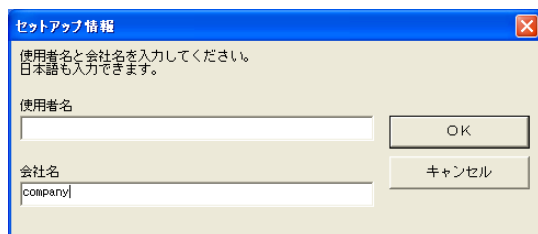


同意しないと、セットアップは終了し、Windows XPはインストールされません。

11. 基本情報で「サービスパックの適用」を「する」にした場合は、次の操作をする。

- (1) メッセージに従ってバックアップCD-ROMを光ディスクドライブから取り出す。
- (2) メッセージに従ってWindows XP サービスパックのCD-ROMを光ディスクドライブにセットする。

Windows XPと指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。システムにログオンすると、[セットアップ情報] ウィンドウが表示されます。必要に応じて、ユーザー名と会社名を再入力してください。



12. 14ページを参照し、デバイスドライバ（本体標準装備）のセットアップを行う。
13. オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添付の説明書を参照してドライバをインストールする。
14. 19ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップを行う。
15. 必要に応じて、「ステップ バイ ステップ インタラクティブ (SBSI)」をインストールする。

SBSIはWindows XPを学習するためのトレーニングソフトウェアです。アニメーションと音声を使用し、簡単で使いやすい学習環境が用意されています。

SBSIは、以下の方法でインストールできます。

- (1) SBSI CD-ROMを光ディスクドライブにセットする。
- (2) 「<CD-ROMのドライブレター>:\%setup.exe」を実行する。
メッセージに従ってインストールを行ってください。
- (3) 18ページを参照し、システムのアップデートを行う。

16. 26ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

応用セットアップ

システムの環境やインストールしようとするオペレーティングシステムによっては、特殊な手順でセットアップしなければならない場合があります。

シームレスセットアップ未対応の大容量記憶装置コントローラを利用する場合

最新のディスクアレイコントローラなど、本装置に添付のEXPRESSBUILDERに対応していない大容量記憶装置コントローラが接続されたシステムにおいて、OSの再インストールなどを行う場合は、次の手順でセットアップしてください。



- ビルド・トゥ・オーダーにより、OS組み込み出荷された状態からセットアップを開始する場合には、本操作を行う必要はありません。
- シームレスセットアップに対応しているオプションボードについては「EXPRESSBUILDERがサポートしているオプションボード」(11ページ)を参照してください。

1. セットアップしようとする大容量記憶装置コントローラの説明書を準備する。



本書の内容と大容量記憶装置コントローラの説明書との内容が異なる場合は、大容量記憶装置コントローラの説明書を優先してください。

2. ディスクアレイコントローラの場合は、コントローラの説明書に従ってRAIDの設定を行う。

RAID設定の不要な大容量記憶装置コントローラの場合は、手順3へ進んでください。

3. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからシステムを起動させる。
4. シームレスセットアップを実行し、次のような内容に設定されていることを確認する。
 - － アレイディスクの設定画面が表示された場合は、[既存のRAIDを使う]をチェックする



コントローラによっては、設定画面が現れないことがあります。

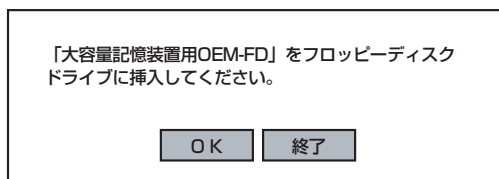
- － [大容量記憶装置用OEM-FDの適用をする]をチェックする



このオプションをチェックすることで、フロッピーディスクで提供されているドライバを読み込ませて、シームレスセットアップを進めることができます。

5. シームレスセットアップの途中で [大容量記憶装置用ドライバ] をコピーする。

大容量記憶装置コントローラに添付されているフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、以降は画面のメッセージに従って操作してください。



マニュアルセットアップ

本装置へのオペレーティングシステムのインストールは、シームレスセットアップを使用することをお勧めしていますが、保守用パーティションを確保しないでオペレーティングシステムをインストールするなど、特殊なインストールに対応する場合、マニュアルセットアップが必要になることがあります。

シームレスセットアップを使わずに Windows をインストールする方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Microsoft Windows XP Professionalインストールサプリメントガイド」を参照してください。また、あらかじめEXPRESSBUILDERから、各OS用の「サポートディスク」を作成しておいてください。



オプションボードを接続する場合は、オプションボードに添付の説明書も併せて参照してください。

論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順

再セットアップをはじめる前に、万一の場合に備えて必ずデータのバックアップを行ってください。

再セットアップ手順

1. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを開始する。
2. 次のメッセージが表示されたら、OSをセットアップしたいパーティションを選択する。

次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。

上下の方向キーを使って、一覧からパーティションを選択してください。



システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字はセットアップ完了後は修正できません。この画面で正しいドライブ文字が割り当てられていることを確認してからセットアップを続行してください。

3. 本書および「インストレーションサプリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを続行する。

以上で完了です。



セットアップ完了後、再セットアップ前とドライブ文字が異なる場合があります。ドライブ文字の修正が必要な場合は次項の「ドライブ文字の修正手順」に従ってドライブ文字を変更してください。

ドライブ文字の修正手順

以下の手順では、システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字は変更できません。ご注意ください。

1. [スタートメニュー]から[マイコンピュータ]を右クリックし、[管理]を選択して[コンピュータの管理]を起動する。
2. 左側のウィンドウの中から、[ディスクの管理]を選択する。
3. ドライブ文字を変更したいボリュームを選択して右クリックし、[ドライブ文字とパスの変更]を選択する。
4. [変更]をクリックする。
5. [次のドライブ文字を割り当てる]をクリックし、割り当てたいドライブ文字を選択する。
6. [OK]をクリックする。

7. 以下の確認メッセージが表示されたら、[はい]をクリックする。

ボリュームのドライブ文字を変更すると、プログラムが動作しないことがあります。このドライブ文字を変更しますか？

8. [コンピュータの管理]を終了する。

以上で完了です。

HostRAID™について

ここではHostRAIDの概要およびセットアップ手順について説明します。

HostRAIDの概要

HostRAIDとは、システムに標準搭載されたシリアルATAインタフェースを使用し、RAID機能を提供します。

HostRAIDでは、ディスクアレイを制御するドライバとディスクアレイの管理ユーティリティである「Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition」(以降、ASMBEと略す)から構成されています。

これらのソフトウェアはどちらか一方でも欠けると正常な動作ができません。ドライバは本書のセットアップ手順を参照し、ASMBEは「Adaptec Storage Manager™ - Browser Edition ユーザーズマニュアル」を参照して必ず両方のソフトウェアをインストールしてください。

仕様

ハードディスクドライブ:	1チャンネルあたり2ドライブ (マザーボードにてチャンネル装備)
RAIDレベル:	RAID 0/RAID 1
OS:	Microsoft Windows XP Professional/Windows 2000 Professional
ディスクアレイの構築:	BIOSセットアップユーティリティ、EXPRESSBUILDER、および管理ユーティリティ

特長

- BIOSセットアップユーティリティにより、チャンネル単位でのディスクアレイ/標準SCSIの切り替え可能。
- 管理ユーティリティ ASMBE(JAVAベース)はブラウザ(IE5.5以上)を使用するため、管理用クライアントPCごとのクライアントソフトウェアのインストールが不要(サーバへのインストールは必要)。



「本体標準装備のHostRAIDを使用してシリアルATAハードディスクドライブをディスクアレイで使用している場合は必ず、「Advanced」メニューの「Peripheral Configuration」→「SATA Controller Mode Option」を「Enhanced」に設定し、「Advanced」メニューの「Peripheral Configuration」→「SATA RAID Enable」を「Enabled」に設定してください。初期値(「Disabled」)のまま起動するとハードディスクドライブのデータが壊れる場合があります。」

注意事項

HostRAID全般に関する注意事項について説明します。

BIOSセットアップユーティリティに関する注意事項については、155ページを、ASMBEに関する注意/制限事項はオンラインドキュメント「Adaptec Storage Manager™ - Browser Editionユーザーズマニュアル」を参照し、確認してください。

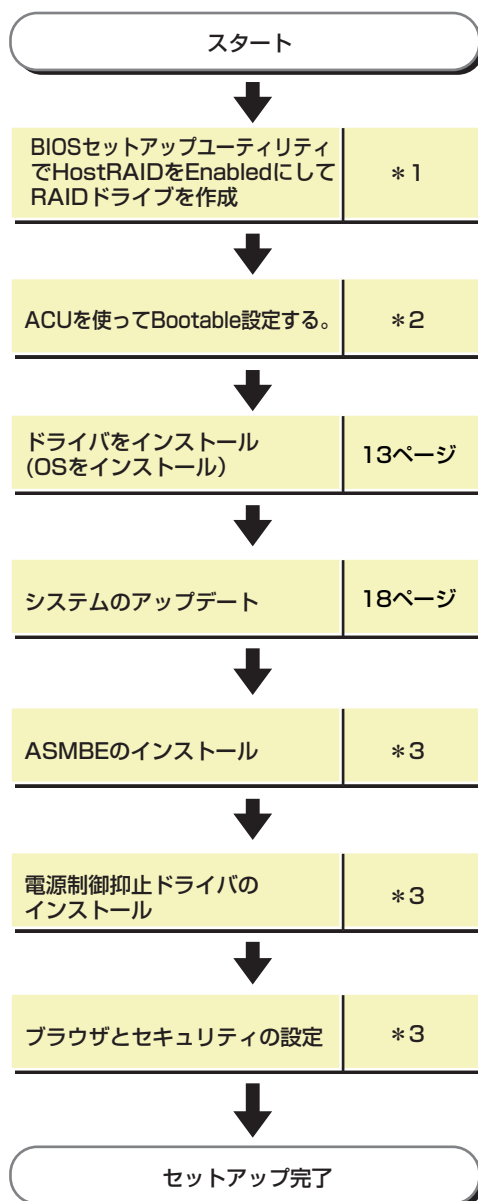


「Adaptec Storage Manager™ - Browser Editionユーザーズマニュアル」は本装置に添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMにオンラインドキュメントとして格納されています。

- HostRAIDの機能を使用して作成したRAIDドライブをシステムドライブとして運用してください。データ専用領域としては使用できません。
- HostRAIDの機能を使用するためには、ドライバのインストール以外にASMBEのインストールが必須です。ASMBEのインストールについては、「Adaptec Storage Manager™ - Browser Editionユーザーズマニュアル」を参照してください。
- HostRAIDで使用しているハードディスクドライブはホットスワップに対応していません。このため、ハードディスクドライブを交換する場合は、システムの電源をOFFにした状態で交換してください。(交換するハードディスクドライブはASMBE画面で接続されているPort番号を確認してから実施することをお勧めします。)
- HostRAIDではACPI機能のスタンバイ/休止モードを使用できません。
- HostRAIDの保守作業はBIOSセットアップユーティリティを使用せず、ASMBEを使用してください。
- HostRAIDのアレイ保守操作以外はASMBEのブラウザ表示を終了させておいてください。
- HostRAID利用時は、「RAIDコンフィグレーション」の「ディスクアレイの管理」を参照し、必ずBIOSにてBootableの設定を行ってください。本設定を行わない場合は、障害発生時メモリダンプを採取することができない等の問題が発生します。
- ASMBEよりVerify機能を利用時、Timeoutが発生する場合があります。システム運用上問題はありませので、そのまま運用願います。

HostRAIDセットアップの流れ

HostRAIDシステムをセットアップする作業手順の流れは以下のとおりです。



*1 155ページのRAIDコンフィグレーションを参照してください。HostRAIDをEnableとする方法は156ページの「BIOSセットアップユーティリティを使用したRAIDの有効化」の項を参照願います。RAIDドライブの作成方法については、157ページの「Array Configuration Utility (ACU) を使ったRAIDの構築」の項を参照願います。なお、RAIDドライブの作成はEXPRESSBUILDERからも可能です。EXPRESSBUILDERからRAIDドライブの作成を行う場合は、BIOSセットアップユーティリティを使用してHostRAIDをEnabledとする操作のみ実施してください。

*2 166ページを参照してBootableの設定をして下さい。

*3 Adaptec Storage Manager™ - Browser Editionユーザーズマニュアルを参照してください。

